

2011年3月期（2010年度）決算 事業報告会資料

2011年5月27日

戸田工業株式会社
戸田工業グループ

目次

□ 2011年3月期(2010年度) 事業の業績(連結)

2011年3月期 連結業績	4
業績の特徴	5
セグメント別売上高	6
2011年3月期 貸借対照表科目	7
貸借対照表科目の特徴	8
主な連結子会社の状況	9
設備投資・研究開発・減価償却	10
経営成績改善の主な背景	11

□ 中期経営計画(2010～2012年度)

経営方針	13
業績目標	14
リチウムイオン電池材料マーケットの将来展望	15
アジア・北米における主な生産体制	16
既存事業への新規商品の投入、拡販	17

2011年3月期（2010年度） 事業の業績（連結）

2011年3月期 連結業績

(単位：百万円)

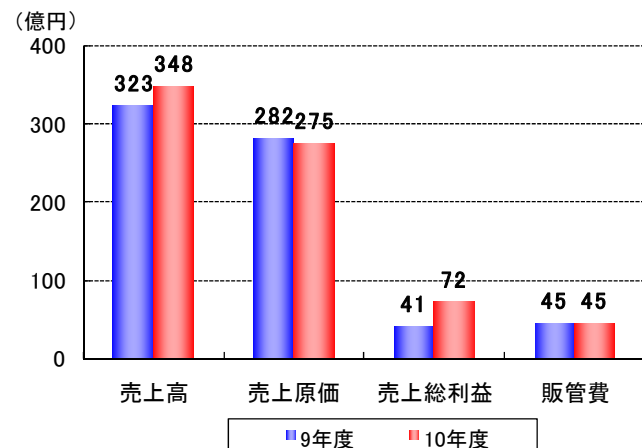
損益	10年3月期	11年3月期	前年同期比
売上高	32,320	34,847	108%
売上原価	28,219	27,590	98%
売上総利益	4,100	7,257	177%
販管費	4,594	4,516	98%
営業利益	△ 493	2,741	-
経常利益	△ 741	1,702	-
当期純利益	964	1,245	129%
1株当たり 純利益 (円)	21.39	27.66	129%

業績の特徴

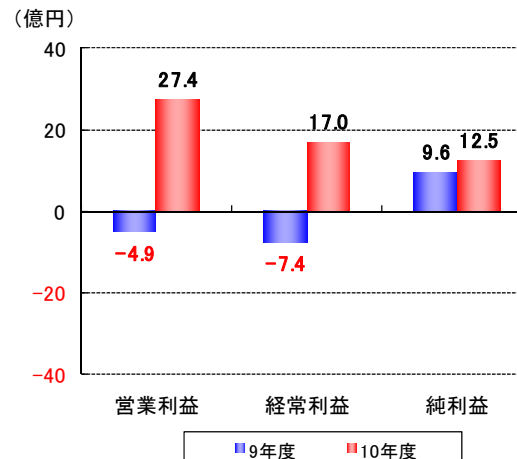
特徴

1. リチウムイオン電池用正極材料が、電気自動車（EV）向けに拡大しました。また、カートナー用キャリアが成長するとともに、セラミックコンデンサ用誘電体材料が新規に立上がりました。その結果、売上高は景気回復と合わせて、昨年度に比較して8%増加して348億4,700万円となりました。
2. 更に、原燃料コストの低減、生産体制の効率化などに引続き取組んだことにより、売上原価・販管費ともに前年度比2%低減し、営業利益率は7.9%へと大きく改善されました。
3. 以上より、営業利益は27億4,100万円、経常利益は17億200万円、当期純利益は12億4,500万円、一株当りの純利益は、27.6円となりました。

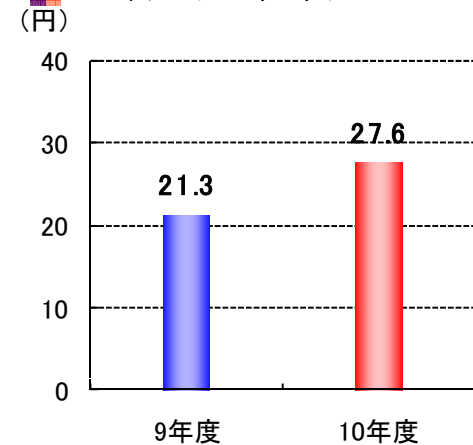
売上高、販管費等



利益



一株当り純利益



セグメント別売上高

(単位：百万円)

セグメント	10年3月期	11年3月期	前年同期比	包含事業
機能性顔料	12,105	14,035	116%	電子印刷材料、磁気記録材料、顔料、ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド など
電子素材	13,328	14,998	113%	電池材料、電磁環境部品/材料、磁石/磁石材料、電子印刷部品、半導体装置、塩化ビニール安定剤 など
エンジニアリング	6,876	5,813	85%	環境エンジニアリング、土壌浄化用触媒 など
合計	32,310	34,847	108%	

1. 機能性顔料は、カラートナー用キャリアを始めとした販売の拡大と景気回復とにより、前期比+16%の増収となりました。
2. 電子素材では、リチウムイオン電池用正極材料がEV用に拡大し、誘電体材料も新しくビジネスとしてスタートしました。景気回復と合わせて、前期比+13%の増収となりました。
3. エンジニアリングは、ビジネスサイクルが長いため、リーマンショック後の設備投資意欲の減退の影響を今期受けており、前期比△15%の減収となりました。

2011年3月期 貸借対照表科目

(単位：百万円)

貸借対照表科目	10年3月期	11年3月期	増減
流動資産	23,512	23,062	△ 450
固定資産	32,186	33,073	887
流動負債	21,144	22,567	1,423
固定負債	12,681	10,873	△ 1,808
少数株主持分	383	523	140
株主資本	21,968	23,017	1,049
総資産	55,699	56,136	437
現金/同等物	6,583	4,772	△ 1,811
キャッシュフロー	△ 356	△ 1,811	△ 1,455
ROE (%)	4.4	5.4	1.0

(注)ROEは株主資本合計に対して計算したものです。

貸借対照表科目の特徴

1. 固定資産は、電池関係、誘電体材料関係に向けた新規設備投資等で8億8,700万円増加しました。
2. 負債については、17億3,100万円の借入金及び社債の返済を進めました。一方では、売上拡大に伴う流動的債務が拡大するため、流動負債と固定負債を合わせた負債合計は、3億8,500万円の減少となりました。
3. 株主資本については、12億円を超える純利益により10億4,900万円改善しました。その結果、自己資本比率が0.9ポイント改善して39.5%となりました。
4. キャッシュフローは、借入金の返済により14億5,500万円減少しています。
5. ROEは1.0%改善し5.4%となりました。

主な連結子会社の状況

(単位：百万円)

会社名	売上高		経常利益		決算期
	10年3月期	11年3月期	10年3月期	11年3月期	
富士化水工業株式会社	7,044	6,084	71	△ 232	12月末
戸田マテリアル株式会社	2,760	6,350	160	444	3月末
戸田ピグメント株式会社	1,529	1,433	104	30	3月末
東京色材工業株式会社	1,412	1,966	266	395	3月末
戸田工業ヨーロッパ GmbH	849	1,067	△ 3	7	3月末
戸田塑磁材料（浙江）有限公司	664	1,098	96	122	12月末

【増収増益】

1. 戸田マテリアル株は、EV向けへのリチウムイオン電池材の売上拡大により、大幅な増収増益となりました。
2. 東京色材工業株は、需要の拡大が進み、前期に続いて大幅な増収増益となっています。
3. 戸田工業ヨーロッパ GmbHは、電池材中心に売上をのぼし、経常利益は黒字転換しています。
4. 戸田塑磁材料（浙江）有限公司は、中国国内の堅調な需要に支えられて増収増益が続いています。

【減収減益】

1. 富士化水工業株は、景気回復傾向のなか民間設備投資の動きが鈍く、売上が伸び悩んだ事に加え、工事の採算も悪化しており、大幅な減収となり遺憾ながら経常赤字となりました。
2. 戸田ピグメント株は、円高による低価格帯での海外勢攻勢もあり苦戦しました。

設備投資・研究開発・減価償却

(単位：百万円)

	10年3月期	11年3月期	前年同期比
設備投資額	1,757	3,362	191%
研究開発費	1,564	1,681	107%
減価償却費	2,221	2,450	110%

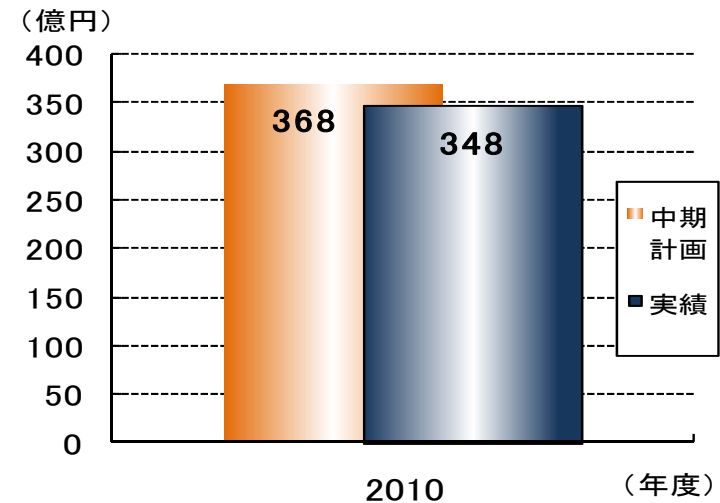
1. 設備投資は、リチウムイオン電池材料の生産設備を中心に行いました。前期比91%増となっておりますが、これは前年度がリーマンショックの翌年で、投資を抑制していた影響となります。
2. 研究開発費は、新規事業の開発に重点配分し、前期比7%増加させました。
3. 減価償却費につきましては、前期までに実施した設備の稼働が順次始まり、前期比10%増加しています。

経営成績改善の主な背景

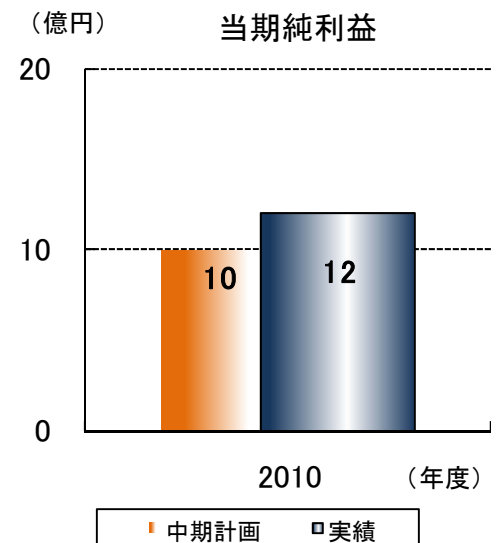
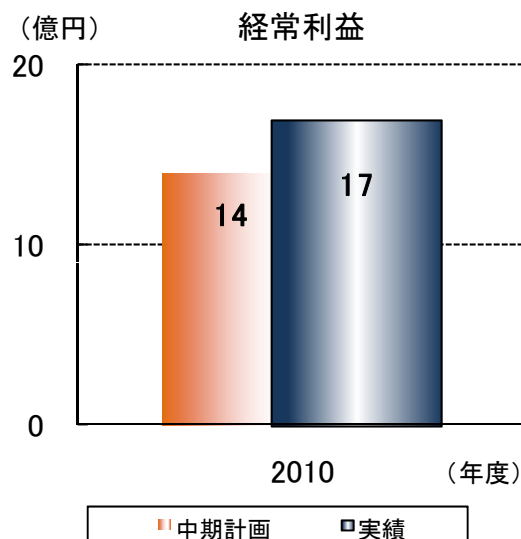
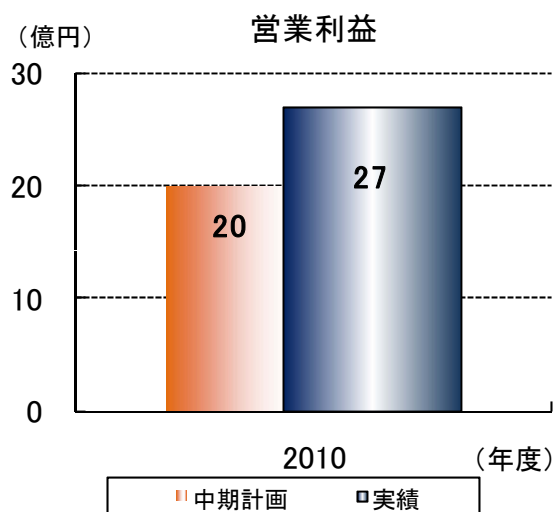
背景

1. リーマンショック直後の経済縮小から、経済全体が回復した。
2. 電気自動車（EV）用へのリチウムイオン電池用正極材料が本格的に動き出した。
3. 誘電体材料などの新しい材料が動き出した。
4. 業務の効率化、機構改革が経費の削減に寄与した。

売上高



利益



中期経営計画（2010～2012年度）

2011年5月27日

戸田工業株式会社

1. 電池材料事業の成長と強固な事業基盤の確立を図る。

2. 既存事業分野への新規商品の投入による事業活力の増強を図る。

3. 事業体質と事業展開の効率化を強力に推進し、
財務体質を始めとした経営体質の一層の強化を図る。

4. 経営目標のレベルを先ず着実に達成することを目指す。

【 経営目標レベル 】

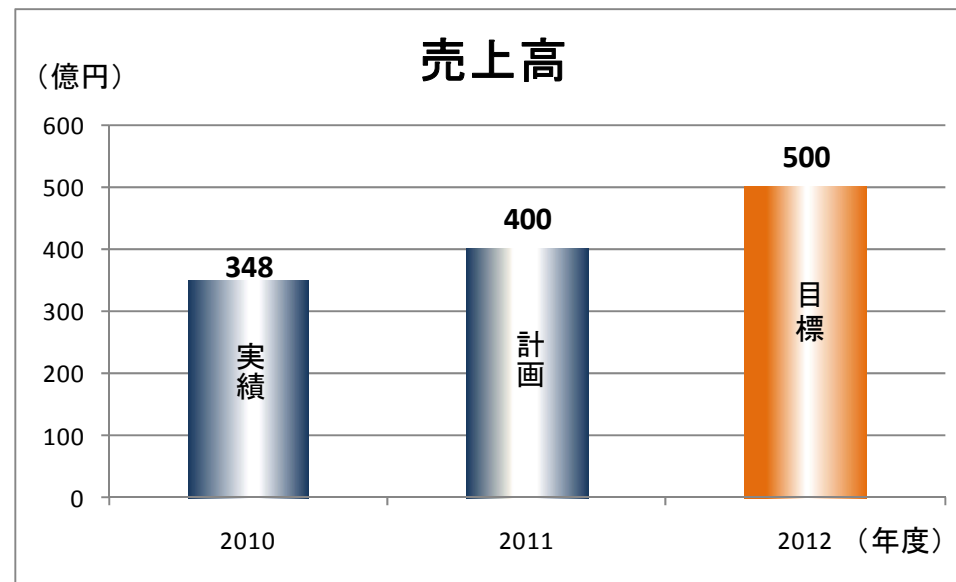
売上高 500億円

営業利益率 5%以上

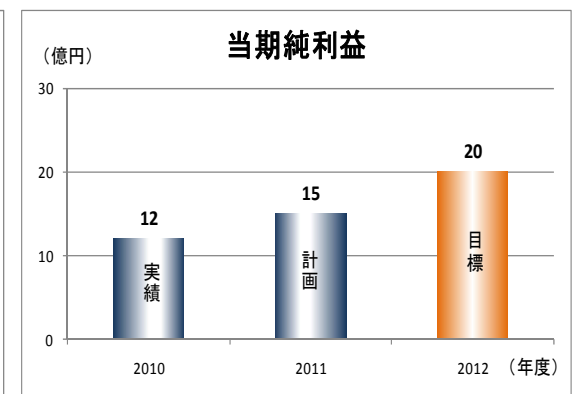
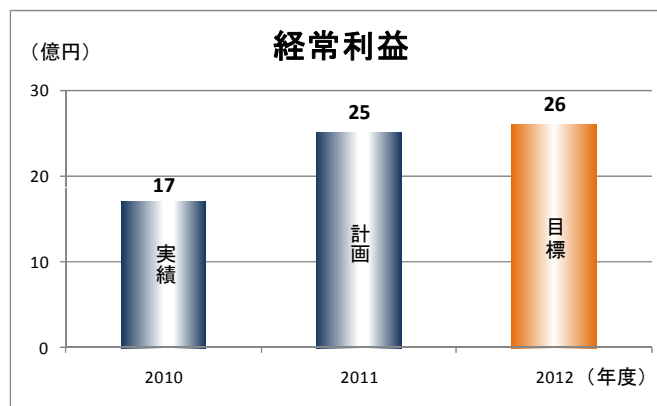
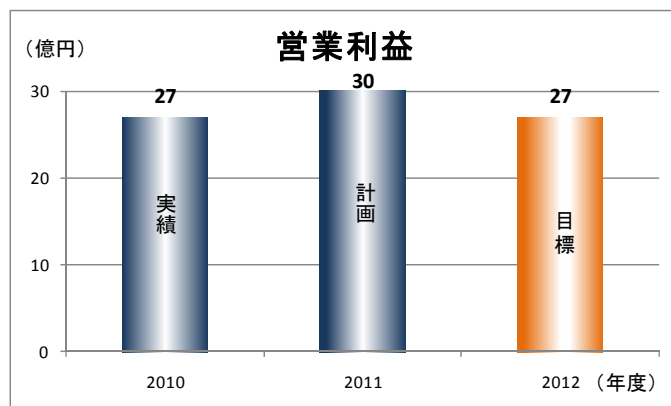
業績目標

売上高 500億円、営業利益率 5%以上を確実に達成することを中期計画の目標としています。2011年度については、5%を上回る実行計画が作成できました。

■ 売上高



■ 利益

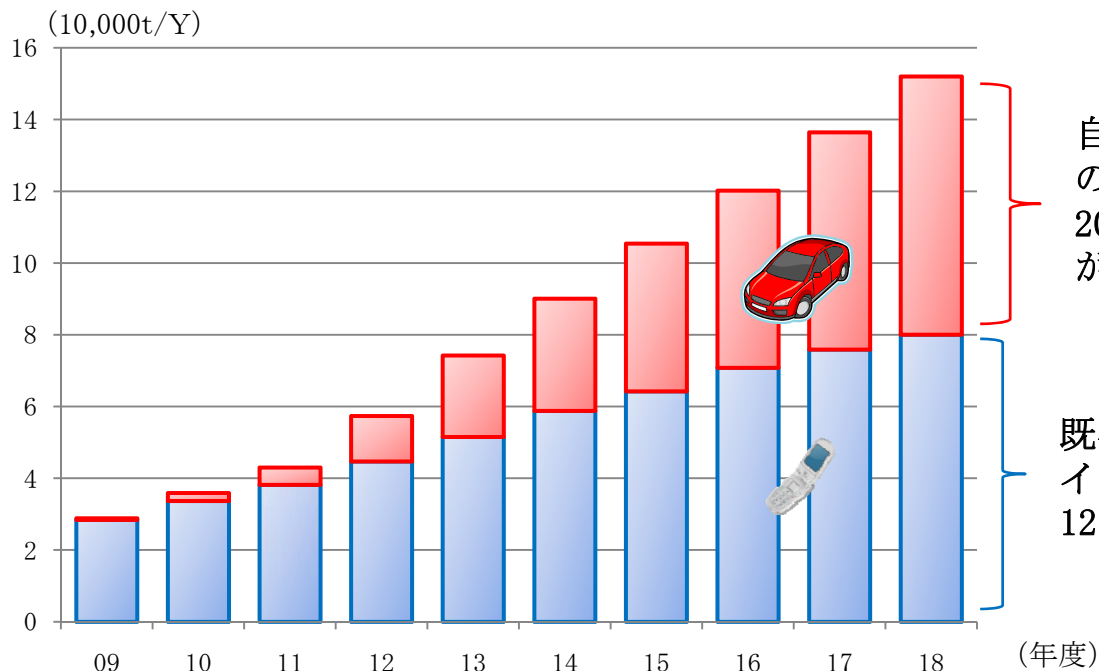


リチウムイオン電池材料マーケットの将来展望

リチウムイオン電池の市場は成長を続けます。

- (1) 電気自動車(EV・HEV)へのリチウムイオン電池の搭載が始まりました。
- (2) スマートグリッド、太陽電池等、社会インフラへの導入も一斉に検討、試験が始まっています。
- (3) 総合すると、リチウムイオン電池正極材料の市場は、年率20%程度の成長が期待されます。

リチウムイオン電池正極材料マーケットの成長



自動車用リチウムイオン電池の市場が新たに生まれます。2018年には、45%程度の市場が見込まれます。

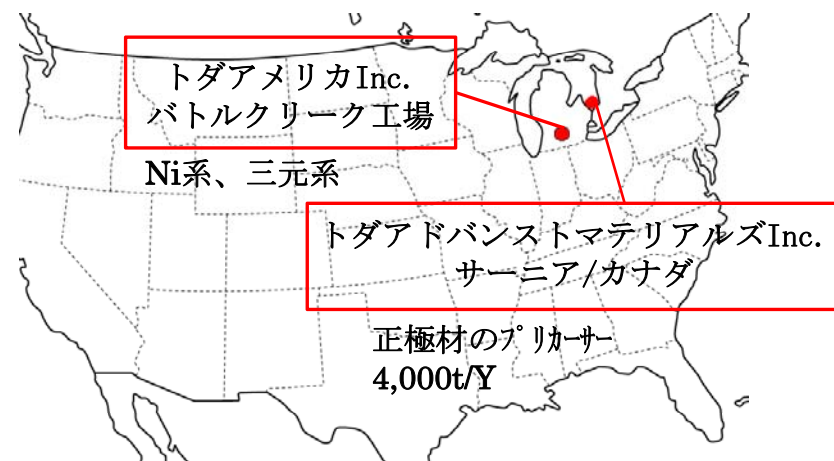
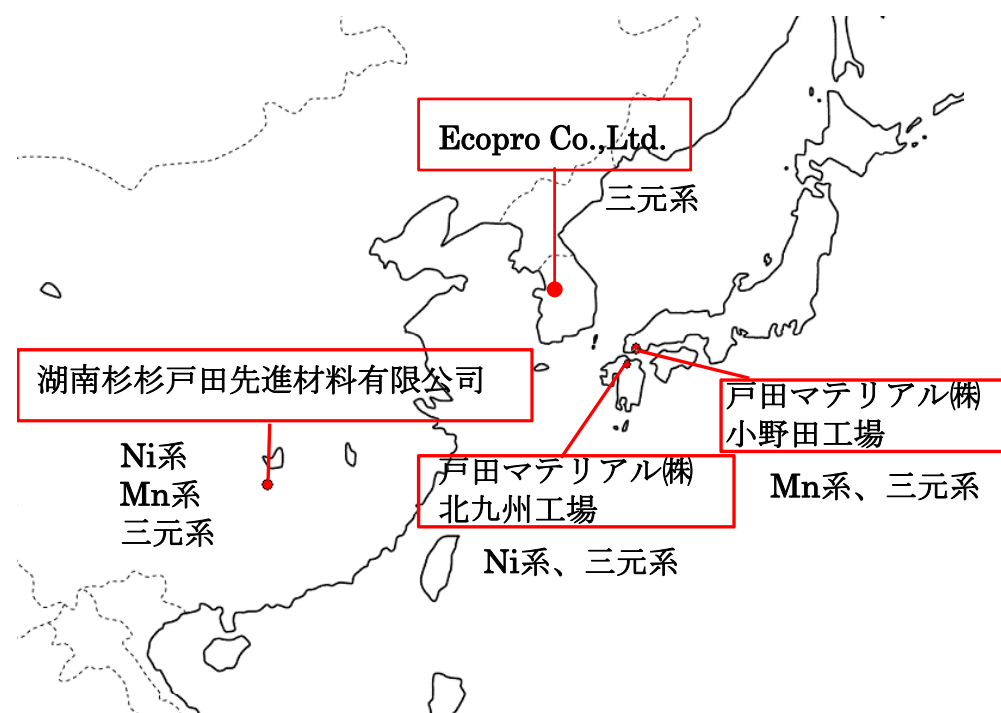
既存のモバイル用リチウムイオン電池の需要も、年率12%程度で伸び続けます。

(IT総研資料より当社で換算)

アジア・北米における主な生産体制

[アジア]

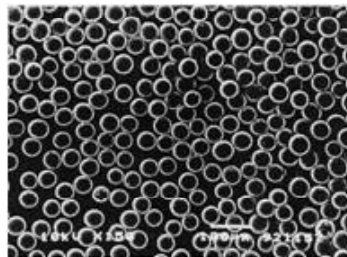
[北米]



既存事業への新規商品の投入、拡販

新規商品

トナー用
キャリア



チタン酸
バリウム



ナノ銀



取組

真球状で磁力の強力なトナー用キャリアMRCは、先端を走る高精度印刷に最適なイメージング材料です。益々求められる印刷の高品質化に向けて、MRCの活躍分野を広げて行きます。

高度情報化社会に対応して小型大容量のセラミックコンデンサー用誘電体材料として超微粒子のチタン酸バリウムを生産・販売しています。スマートフォン市場の伸長に牽引される形で、需要が増加しています。

ナノスケールの銀は、特徴的で有能な性能を有しています。当社の優位性のある生産技術で電磁遮蔽、光学フィルター、太陽電池用電極材料用途に向けて新商品を開発し展開して行きます。

将来予測について

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる結果となりうる事を、ご承知おき下さい。

お問い合わせ先

戸田工業株式会社

常務取締役 経営企画本部長

高橋 精一

TEL 03 - 3433 - 2411

FAX 03 - 5404 - 7244

E-mail: Webmaster@todakogyo.co.jp